
透析室における防災対応マニュアルの再検討

秋田組合総合病院 西三病棟 腎臓内科
小松きよ子、石川ユミ子、丸山宏、大友喜江子
渡部友子、菅野詔子、本間恵子

Re-examination of Manual of Countermeasure for Preventing Disaster in Dialysis Center

Kiyoko Komatsu, Yumiko Ishikawa, Hiroshi Maruyama, Kieko Ohotomo,
Tomoko Watanabe, Noriko Sugano
West 3 Hospital Ward and Dialysis Center
Akita Kumiai General Hospital, Akita

はじめに

阪神、淡路大震災は、テレビ、新聞等の報道を通して、深刻な気持ちにさせられた。又とっさの判断と迅速な行動力の必要性を再認識する機会ともなった。当院の透析室の防災訓練時は透析室独自の防災マニュアル（以下マニュアルとする）を活用していたが、冊子になっているため改めて読む機会が少ない事や、内容が不十分で活用しにくい等の問題があり、今回マニュアルの再検討を行ったので報告する。

I. 研究方法

期間：平成10年5月～11月

場所：秋田組合総合病院 西3病棟 透析室

対象：透析室勤務看護婦及び臨床工学士20名

方法：1) 従来のマニュアルについてのアンケートを実施した。

2) 「中小病院災害対策マニュアル」を基にマニュアルの再検討を行った。

II. 結果

アンケート結果では①日頃防災マニュアルを読んでいますか？では20人中18人が、ほとんど読んでいないと答えており、②読んでいない理由では、冊子になっているため読みにくい20人中12人であった。③従来のマニュアルに追加や改善すべき点は何ですか？では、個々の役割を明確にし、具体的に表示してほしいが20人中14人であった。以上のことから防災時の対応では図1に示すように新たに地震時の対応を追加し、婦長又は代行者の役割を明記し、パネル表示とした。図2に示すように、避難時看護体制には、各フロアナースの役割を明記し、各フロアにパネル表示した。表1に示すように重要持ち出し書類の内容を検討し4～8項目を追加した。

図 1 防災時の対応 (婦長、代行者)

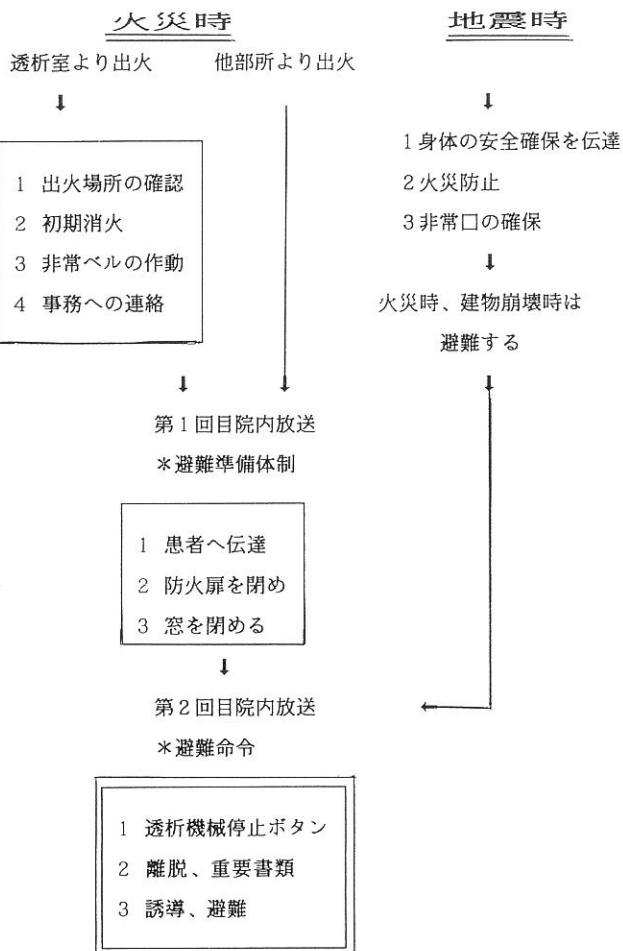


図 2

避難時看護体制

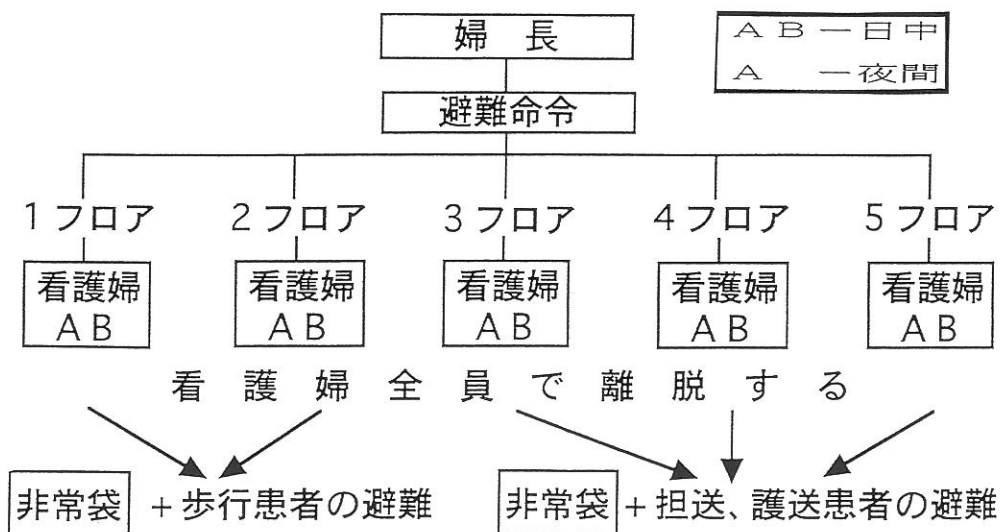


表 1

重要持ち出し書類

1. 職員一覧表
2. 職員緊急連絡網
3. 透析患者一覧表
4. 透析患者情報用紙
5. 業者別連絡網（透析液、ダイアライザー、他）
6. ライフライン途絶時の対応（電気、水）
7. 県内透析施設一覧表
8. 災害時回線

Ⅲ. 考察

日頃、防災時迅速に対応出来るかどうか不安を持っているスタッフが多い反面、マニュアルが冊子になっているため、ほとんど活用されていない事がわかった。又従来のマニュアルに地震時の対応方法を追加し、婦長、フロアナースの役割を明確にし、各フロアにパネル表示した事で「活用しやすくなった」「自分達が責任を持って避難させなければ」等の声が多く聞かれるようになった。さらに重要持ち出し書類の内容を充実させた事により災害発生後の対処も速やかに行えると考える。今後は医師の協力のもと、他施設とのネットワーク作りも合わせて行う事で、より災害時に対処出来るのではないかと考える。

Ⅳ. 結論

1. マニュアルの内容を充実させた事により個々の役割や行動が明確になった。
2. 防災時の対応及び避難方法をパネル表示した事で、活用しやすくなり、防災に対する意識が高まった。

参 考 文 献

1. 石原哲：中小病院災害対策マニュアル・日本医療企画，1998